

# 只見の自然

合本

vol. 1 2007.9.25—vol. 20 2025.2.10



只見の自然に学ぶ会

# 学术通信

合本

vol. 1 2007.9.25—vol. 20 2025.2.10





ユビソヤナギ観察会 左から2人目は吉山寛氏(2005.5.15)



水鳥観察会[只見湖](2010.1.9)



観察会「お尻で見る葉っぱ図鑑」 中央は伊沢正名氏(2011.6.12)



第1回目の花暦調査[青少年旅行村いこいの森](2013.5.12)



ユビソヤナギ観察会【黒沢】 中央は崎尾均氏(2015.4.12)



春の植物と野鳥観察会【黒谷川流域】(2022.5.7)



## 学ぶ会通信 合本 vol.1 2007.9.25-vol.20 2025.2.10 もくじ

言い続ければ、思いはとどく ——四半世紀の活動をふり返って	4
「学ぶ会通信」一覧・凡例	6

学ぶ会通信 Vol. 1 秋号	7
学ぶ会通信 Vol. 2 冬号	11
学ぶ会通信 Vol. 3 春号	15
学ぶ会通信 Vol. 4 夏号	19
学ぶ会通信 Vol. 5 冬号	27
学ぶ会通信 Vol. 6 春号	35
学ぶ会通信 Vol. 7 冬号	43
学ぶ会通信 Vol. 8	51
学ぶ会通信 Vol. 9	59
学ぶ会通信 Vol. 10	69
学ぶ会通信 Vol. 11	81
学ぶ会通信 Vol. 12	97
学ぶ会通信 Vol. 13	109
学ぶ会通信 Vol. 14	125
学ぶ会通信 Vol. 15	149
学ぶ会通信 Vol. 16	169
学ぶ会通信 Vol. 17	189
学ぶ会通信 Vol. 18	209
学ぶ会通信 Vol. 19	221
学ぶ会通信 Vol. 20	237

只見の自然に学ぶ会 主な活動 2001—2025年	253
只見の自然に学ぶ会 発行物一覧	257
「只見の自然に学ぼう会」の告知用ポスターとチラシ	258

①ユビソヤナギ観察会(2008.4.19) ②総会(2009.6.6)  
③吉尾峠ハイキング(2009.6.7) ④美女峠ハイキング(2013.11.5)  
⑤春の草花観察会[黒谷](2019.4.8)

# 言い続ければ、思いはとどく ——四半世紀の活動をふり返って

新 国 勇

只見の自然に学ぶ会が発足して四半世紀をむかえる。はじめはホームページとメーリングリストから発信していた。しかし、ネット環境をもたない会員や会以外の人にも活動を理解してもらいたいということから「学ぶ会通信」を発行するようになった。このたび、「学ぶ会通信」が20号となったのを機会に合本し、記念誌として刊行することにした。そこで、いままでの活動や地域社会の変化についてふり返ってみたい。

只見の自然を知ってもらい自然が誇れるまちにしたいという思いから会を設立した。立ち上げた当時、自然に関心がある人はきわめてすくなかったように思う。歴史や民俗に興味をもつ人はいるものの、自然に目を向けるような風潮はみられなかった。自然はあってあたりまえ、誇るほどでもないというのが大勢だった。町の観光事業といえば、温泉の掘削やキャンプ場整備というハコモノが中心。どこにも比べることでできない豊かな自然環境をもっているのに、どうして自然志向のまちづくりができないのかと考えていた。似たような施設をつくるのではなく、自分たちが住む自然環境を調べて掘り下げれば只見の特色を見出すことができると思った。そのころ、只見川や伊南川ではシロヤナギやオノエヤナギなどの水辺林が伐採されてコンクリート護岸にする工事がさかんだった。水辺林は多くの生物が生息する多様性に富む生態系をもつとともに、河川の景観もゆたかにしている。そこで水辺林を保全するために啓発活動をはじめた。水

辺林の研究者をよんでシンポジウムと観察会を開き、リーフレットを作成してその重要性を説いた。水辺林を調査していくなかで、ユビソヤナギが発見されるという幸運もあった。ユビソヤナギは希少な絶滅危惧種で、伊南川と只見川が国内最大の自生地であることがわかった。生育地の全容を把握するため、ユビソヤナギの全木調査をおこない、2冊の報告書にまとめた。これによって流域における自生状況の全体像が明らかとなり、希少種を保全していくための基礎資料とすることができた。自然環境を保全する風潮がたかまるにつれ、オーバーツーリズムや入山規制が課題となっていたので、自然への接し方やガイドのノウハウをまとめた「自然体験活動ガイドライン」を策定し、関係する機関や団体に配布した。これは自然に負荷をかけず観察しながら地元の人への配慮も求めるガイドラインとして先駆的な試みだった。学ぶ会の活動のなかで大きなできごとは、ブナ天然林の伐採反対運動である。奥会津のブナ天然林が伐採されているのを危ぶんだ日本野鳥の会南会津支部の要請に応じて行動した。その後、ブナ林総合学術調査に参加し、奥会津地域のブナ天然林が遺伝的多様性の高い貴重な森林であることがわかった。反対運動は全国にひろがって支持が得られるようになり、最終的に林野庁は只見町・金山町・檜枝岐村・南会津町をまたぐ国有林を奥会津森林生態系保護地域に設定して保護していくことになった。このほか講演会、シンポジウム、観察会もたびたび開催している。バードウォッチング、ユビソヤナギ観察会、春



花曆調査[会津朝日岳登山道](2022.5.15)  
架橋されていない赤倉沢の渡渉を終えて



ユビソヤナギ調査[黒谷](2014.4.6)



春植物と野鳥観察会[黒谷川流域] (2021.4.25)

植物観察会、花暦調査、ホタル観賞会などは恒例の催しだ。古老に話を聞きながら集落の文化財や寺社を歩くムラめぐりもはじめている。さらに全国組織の自然団体を誘致して、さまざまなイベントを共催してきた。「ブナからはじまる水物語」(溪畔林研究会)、「コウモリフェスティバル」(日本コウモリの会)、「冬虫夏草の不思議な世界」(日本冬虫夏草の会)などのシンポジウムでは、全国から研究者や愛好者が集まり、只見町の自然の価値と貴重性がひろく知られるようになった。それぞれのシンポジウムや野外観察会は団体だけの行事として開催されるのがふつうだが、学ぶ会が共催することによって一般の人々も参加できる催しにしてもらうことができた。専門性の高いイベントは、町内のみならず県外からも関心もよび、知名度を高めることができたと思う。このような活動とともに、只見の自然を題材とするパンフレットやガイドブックも数多く刊行し、行政機関や学校などに配布した。また、会津管内の小中学校の総合的な学習や高校のスーパーサイエンススクール、大学の実習や各種会議での講師を務め、自然の多様性や重要性を広めてきた。

しかし、自然を守ろうという声をあげるたび、各方面とぶつかることも多かった。ブナ林の伐採反対運動では林野庁と、ユビソヤナギ自生地での河川工事や国道の除草剤散布では福島県と、沼ノ平の遊歩道新設では只見町と交渉した。ダム湖で浚渫された土砂を町内各所に運んでいることにも異議を唱えている。やり取りがこじれてくると、「そこまでやらなくてもいいではないか」「反対するばかりでは町の発展はない」と批判されてきた。ブ

ナ林伐採反対運動では「町の地場産業を衰退させる」と非難された。ユビソヤナギの保全を訴えれば「ヤナギの木を切らないから流木となり大水になる。大水が出たら責任はだれがとるのか」と詰問されたこともある。しかし、学ぶ会は自然保護団体ではなく、地域づくり団体であるという意識をもってやってきた。自然をたいせつにしてこそ地域は長続きするという信念があった。いまでこそユビソヤナギは伊南川流域で知らない人はいなくなり、奥会津のブナ林を訪れる人も多くなった。地域の安全と発展のためという名目でおこなわれる事業に対して物申す行動は、さまざまな障害がありストレスがつづいて疲れることもあった。しかし、いまになってふり返ると、思いどおりになったという気がする。地球温暖化の防止や生物多様性の保全は世界じゅうの国々の責務となり、サステナブルということばもふつうに使われるようになった。只見町は日本の自然の中心地という「自然首都」を自認し、自然と人間が共生するユネスコエコパーク登録地となり「ネイチャーポジティブ」宣言までしている。只見町ブナセンターでは観察会や講演会をひんばんに開いている。町民は自分のまちの自然に自信と誇りをもつようになった。まさに手の平を返した感がある。

只見の自然に学ぶ会は、只見の自然をすなおに学び、それを宝として地域の活性化につなげようと活動してきた。自然のすばらしさに気づき、自然のたいせつさを言い続けてきた。言い続ければ、思いはとどく。いまの実感である。

## 「学ぶ会通信」一覧

学ぶ会通信 Vol. 1 秋号	A4・4ページ	2007年9月25日発行
学ぶ会通信 Vol. 2 冬号	A4・4ページ	2008年1月10日発行
学ぶ会通信 Vol. 3 春号	A4・4ページ	2008年4月16日発行
学ぶ会通信 Vol. 4 夏号	A4・8ページ	2008年8月27日発行
学ぶ会通信 Vol. 5 冬号	A4・8ページ	2009年1月18日発行
学ぶ会通信 Vol. 6 春号	A4・8ページ	2009年5月2日発行
学ぶ会通信 Vol. 7 冬号	A4・8ページ	2010年12月23日発行
学ぶ会通信 Vol. 8	A4・8ページ	2013年11月8日発行
学ぶ会通信 Vol. 9	A4・10ページ	2015年3月1日発行
学ぶ会通信 Vol. 10	A4・12ページ	2016年4月23日発行
学ぶ会通信 Vol. 11	A4・16ページ	2017年2月20日発行
学ぶ会通信 Vol. 12	A4・12ページ	2018年3月18日発行
学ぶ会通信 Vol. 13	A4・16ページ	2019年1月30日発行
学ぶ会通信 Vol. 14	A4・24ページ	2020年1月31日発行
学ぶ会通信 Vol. 15	A4・20ページ	2021年2月11日発行
学ぶ会通信 Vol. 16	A4・20ページ	2022年2月11日発行
学ぶ会通信 Vol. 17	A4・20ページ	2023年2月26日発行
学ぶ会通信 Vol. 18	A4・12ページ	2024年2月23日発行
学ぶ会通信 Vol. 19	A4・16ページ	2024年7月6日発行
学ぶ会通信 Vol. 20	A4・16ページ	2025年2月10日発行

### 凡 例

- ノンブルはページ下部、左右に振り分けのものが「学ぶ会通信」のオリジナルのノンブルで、ページ中央の「」で括られたナンバーが通しノンブルである。
- 学ぶ会通信 Vol. 1からVol. 4までは、オリジナルはワードで作成したもので、本書編集にあたり他の号と同じソフトで新たに作成したため、若干オリジナルと異なる。
- Vol. 5からVol. 18までは、現在使用できないフォントがあり、また作成ソフトのバージョンも新しいものに揃えたため、若干オリジナルと異なる。
- Vol. 1からVol. 7までは、レーザープリンターでプリントし手作業で製本した。必要に応じて作成したため正確な部数は把握できないが、およそ100部前後を発行した。
- Vol. 8からVol. 20までは、印刷・製本を印刷会社に外注した。各号とも300部を発行、Vol. 18のみ400部を発行した。
- Vol. 1からVol. 4までは、オリジナルを熊倉恵子が編集し、作成した。
- Vol. 5からVol. 7までは、オリジナルを熊倉恵子が編集、熊倉彰が作成した。
- Vol. 8からVol. 20までは、オリジナルを熊倉彰が編集し、作成した。
- Vol. 1からVol. 7までは、季刊での発行を目指していたため、春夏秋冬の各号の表示がある。
- 明らかな誤字脱字を訂正し、若干の補足を加えた。

# 只見の自然に学ぶ会 主な活動 2001—2025年

## 2001年

- 5.12 只見の自然に学ぶ会（以下、学ぶ会）設立。設立メンバーは4名 代表:新国勇 事務局長:佐藤潤子
- 7.14 ホタルと星空観察会
- 11.23 ネイチャーガイド研修に参加(新潟県旧入広瀬村) 時期不明 ホームページを立ち上げる

## 2002年

- 1.20 水鳥観察会(全国ガンカモハクチョウ類一斉調査) [滝湖・只見湖](以降恒例行事に)
- 2.18 福島県河川整備計画に意見書を提出
- 2-3月 「会津のブナを守る連絡協議会」の賛同団体として 南会津のブナ林伐採計画中止を求め署名活動（只見町民から1000筆以上を集める）
- 2.24 河野昭一京都大学名誉教授の講演会開催（只見地区センター）日本野鳥の会南会津支部と共催
- 5.12 春のバードウォッチング(以降恒例行事に)



日本野鳥の会南会津支部と共催

- 6.10-14 ブナ林調査(田子倉・黒谷・布沢) 河野昭一京都大学名誉教授、日本野鳥の会南会津支部と共同
- 7.31 黒谷川下流域の水辺林の保全を南会津建設事務所に提出
- 8.24 星の伝説と星空鑑賞会(大倉)
- 11.12 水辺林研修会 講師:鈴木和次郎氏(溪畔林研究会)
- 11.31-12.1 南東北「川」ワークショップに参加(郡山市)

## 2003年

- 2.7 福島県河川砂防担当者会議で「生物多様性時代の水辺管理」を講演(福島県建設技術センター)
- 5.24 水辺林再発見プロジェクト「川の宝ものってなあに？」講演とパネルディスカッション(季の郷湯ら里) 学ぶ会主催
- 5.25 観察会「水辺探検隊 in 黒谷川」



- 6.14 第1回 総会(以降毎年6月に開催)
- 8.9 第10回 コカ・コーラ環境教育賞受賞(東京都)
- 10.18 巨樹・巨木めぐり(以降恒例行事に)
- 8.22-23 水辺林調査(寄岩・蒲生・叶津・八木沢・黒沢・長浜)

## 2004年

- 2.14-15 只見ふるさとの雪まつりに「スローフード居酒屋」を出店(2005年と2回)
- 3.14 うつくしま基金の助成が決定
- 4.13 ユビソヤナギ(環境省絶滅危惧IB類)を鈴木和次郎氏が只見町長浜で確認
- 4月 「只見地域における 自然体験活動ガイドライン」発行 A4/6頁(500部)・A4両面3つ折(3000部)
- 5月 「水辺林は生き物たちのオアシス」発行 A4/4頁(3000部)
- 5.5 コウモリ調査 ガイド:向山満氏
- 5.9 春の草花観察会(蒲生)(以降恒例行事に)
- 6.11-12 第13回 溪畔林研究会シンポジウムとエクスカーション(ユビソヤナギ自生地と黒谷川の溪畔林を観察) 溪畔林研究会と共催
- 6.13 只見町主催、森と水辺のシンポジウム「ブナからはじまる水物語—ブナ林と水辺林から地域社会を考える—」(季の郷湯ら里)を後援する
- 6.26 ユビソヤナギ調査開始(鈴木和次郎氏指導)
- 6.27 ユビソヤナギ観察会(伊南川流域)朝日地区センターと共催



杉沢のユビソヤナギ林(中央は鈴木和次郎氏)

- 8.5 コウモリ調査 ガイド:向山満氏
- 8.6 星空鑑賞会(大倉) 講師:古川晃氏

## 2005年

- 5月 『福島県只見町の水辺林 生き物たちのオアシス水辺林を残そう』刊行 A5/本文32頁(1000部)
- 5月 「奥会津只見町の水辺林MAP」発行 B5/8頁(3000部)
- 7.2-3 只見町主催「世界ブナサミット2005 in 只見」の運営に協力

## 2006年

- 3.18 ユビソヤナギ全木調査開始(2006年 計11回、以降継続)

- 6.17-18 ユビソヤナギ研修旅行 湯檜曾川の自生地を訪ねる(群馬県旧みなかみ町)
- 7.16-9.15 コウモリ展「不思議がいっぱい! コウモリの世界」開催(ただみ川のものしり館) コウモリの会と共催
- 8.26-27 「第12回 コウモリフェスティバル2006 in 只見」(只見町青少年旅行村いこいの森・季の郷湯ら里) コウモリの会と共催

### 2007年

- 3.31 奥会津森林生態系保護地域が設定される
- 6.11 沼ノ平のブナ林観察会 坪田和人氏案内
- 6.16 ユビソヤナギ観察会と交流会(午前中は黒谷川・伊南川、午後は只見地区センター) 旧みなかみ町・阿部利夫、鈴木和次郎、菊池賢の各氏ほか
- 9.25 学ぶ会通信 第1号発行
- 9.30 ユビソヤナギ全木調査(2007年 計25回、2357本をカウント)

### 2008年

- 8.29 第1回 只見の自然に学ぼう会「只見の自然再発見! んるぬる大好き 稲葉ワールド~イワナもへびもカエルも大集合~」(只見地区センター) 講師:稲葉修氏
- 9.6 事務局長が渡部和子になる
- 9.20-21 只見川上流(檜枝岐村県境周辺)ユビソヤナギ調査(2008年 計6回、2469本をカウント)

### 2009年

- 1.21 福島県立博物館主催「自然との共生—博物館に求められるもの」で講師を務める(県立博物館)
- 2.1 第2回 只見の自然に学ぼう会「希少樹種の保全とは何か? 希少樹種ハナノキからユビソヤナギへ」(只見地区センター) 講師:鈴木和次郎氏
- 4.12 早春の草花とユビソヤナギ観察会(亀岡・黒谷入)朝日地区センターと共催
- 5.9 第3回 只見の自然に学ぼう会「只見の植物と巨木—奥深い自然に育まれた草木たち—」(只見地区センター) 講師:刈屋寿氏
- 5.10 バードウォッチング(寄岩)と植物観察会(蒲生)



刈屋寿氏も参加された植物観察会

- 7.5 福島県立博物館主催「うつくしま自然展」で学ぶ会のブースへパネルを展示(県立博物館)
- 8.19 南会津振興局主催「知事と語る会」で発表者として

参加(南会津合同庁舎)

- 9.27 第4回 只見の自然に学ぼう会「三田村博士の昆虫講座」(只見地区センター) 講師:三田村敏正氏

### 2010年

- 3.9 第5回 只見の自然に学ぼう会「オオヤマレンゲの生態と遺伝」講師:菊地賢氏/「アガリコの生態学」講師:鈴木和次郎氏
- 6.6 第6回 只見の自然に学ぼう会「奥会津の民俗を探る—雪国の伝承と技」(只見地区センター) 講師:柏村祐司氏
- 6.9 福島県南会津林業事務所より「緑化功労賞」受賞
- 8.20-22 バードカービング教室 遠藤勇氏指導



- 8.23 中央大学環境プログラム只見サマースクールの講師を務める(以降11年間)
- 11.15 福島民友新聞社より「みんゆう環境賞」受賞 助成金をユビソヤナギ調査報告書に活用
- 12.1 只見川電源流域振興協議会主催「奥会津大学」の講師を務める(以降5年間)
- 12.23 第7回 只見の自然に学ぼう会「奥山の湧水にすむ生きている化石トワダカワゲラ」(只見地区センター) 講師:今井初太郎氏
- 12.24 福島大学只見実習の講師を務める(2011年と2回)

### 2011年

- 4.10.17.18 ユビソヤナギ調査報告書の分布図作成のため現地確認
- 6.1 会津学鳳高校スーパーサイエンススクールの講師を務める(以降10年間)



黒谷での水辺林の野外講習

- 6.11 只見の自然に学ぼう会10周年記念事業(第9回 只見の自然に学ぼう会)講演会「くさってつながる命の環」(只見町青少年旅行村いこいの森) 講師:糞土師・伊沢正名氏
- 6.12 観察会「お尻で見る葉っぱ図鑑」(只見町青少年旅行村いこいの森) 講師:伊沢正名氏

- 7.26-30 平成23年新潟・福島豪雨 町内全域に甚大な被害
- 9.23 第10回 只見の自然に学ぼう会「からだに合った葉草の使い方」(ただみ・ブナと川のミュージアム)  
講師:貝津好孝氏
- 9.24 観察会「只見の冬虫夏草を探そう！」(蒲生) 講師:  
貝津好孝氏

**2012年**

- 3.31-4.1 バードカービング教室(ただみ・ブナと川のミュージアム) 遠藤勇氏指導
- 4.30 ユビソヤナギ調査報告書『福島県只見川水系における希少樹種ユビソヤナギ その分布と集団の実態報告書』刊行 A4/本文80頁(800部)
- 10.2 黒谷川・叶津川の河川工事を視察(平成23年7月新潟・福島豪雨災害を受けて)



黒谷川の河川工事を視察

- 10.5 第1回 只見川圏域河川整備協議会に参加
- 12.14 第2回 只見川圏域河川整備協議会に参加

**2013年**

- 1.27 第11回 只見の自然に学ぼう会「環境病をいやす奥会津の実践」(朝日地区センター) 講師:池谷純人氏



講演される池谷氏

- 3.31 「奥会津の木地師」上映会(朝日地区センター)
- 4.14 ユビソヤナギ調査・観察会(伊南川下流～内川)
- 5.12 花暦調査(只見町青少年旅行村いこいの森) 11月までの計7回 以降、年ごとに場所を変え2016年を除き毎年実施
- 11.27 南会津振興局主催「第2回南会津地方の歴史と自然を学ぶ会」の講師を務める(南会津合同庁舎)
- 12.27 福島銀行ふるさと自然環境基金を授与

**2014年**

- 3月-6月 豪雨災害後の現状把握のためユビソヤナギの分布調査(計23回)
- 3.8 第12回 只見の自然に学ぼう会「懐かしき茅葺き時代の南会津」(旧長谷部家住宅) 講師:佐藤勉氏



- 5.3 花暦調査(要害山) 11月までの計7回
- 10.31 『只見の自然を楽しむ本』刊行 A4変形/本文32頁(1000部) 福島銀行ふるさと自然環境基金を活用 只見町の全小中学生に無償配布

**2015年**

- 4.12 ユビソヤナギ観察会(黒沢) 解説:崎尾均氏
- 5.6 花暦調査(季の郷湯ら里周辺) 11月までの計7回



湯ら里付近のブナ二次林を調査

- 6.28 「最後の越後髻女小林ハルさん」上映会
- 9.29 ユビソヤナギ調査(長浜)
- 11.18 ユビソヤナギ調査(小戸沢)

**2016年**

- 3.19 人間文化研究機構主催「人文学の知の展開」で講師とパネラーを務める(東京都)
- 5.11 「只見の自然を楽しむ写真展」開催(叶津・八十里庵)
- 9.15 南会津振興局主催「地球にやさしい“ふくしま”県民会議 南会津地方会議」の講師を務める(南会津合同庁舎)
- 10.16 「只見の自然を楽しむ写真展」開催(季の郷湯ら里)
- 11.20 第13回 只見の自然に学ぼう会「震災と原発事故そして生き物たち」(只見振興センター) 講師:稲葉修氏

**2017年**

- 2.14 「只見の自然を楽しむ写真展」開催(朝日小学校ラウンジルーム・3学期中)
- 5.15 花暦調査(蒲生岳) 11月までの計7回
- 8.29 南会津振興局主催の地域情勢講演会の講師を務める(南会津合同庁舎)
- 9.19 瀬畑さんを囲みDVD上映会とキノコ談義(只見保養センター) 瀬畑雄三氏

**2018年**

- 4.15 第14回 只見の自然に学ぼう会「世界自然遺産小笠原諸島の自然と保全への取り組み」(只見振興セン

ター) 講師:加藤英寿氏

- 5.13 花暦調査とバードウォッチング(布沢癒しの森) 花暦調査は11月までの計7回実施



倒伏した国界の大ブナ(癒しの森)

- 5.25 「只見の自然を楽しむ写真展」開催(明和小学校)

2019年

- 5.12 花暦調査とバードウォッチング(黒谷林道) 花暦調査は11月までの計7回実施
- 5.18 第15回 只見の自然に学ぼう会「コモンズと只見の共同利用資源―叶津を中心に」(只見振興センター) 講師:林雅秀氏
- 6.25 カエルとホタルの観察会(三石神社周辺・黒沢) 講師:吉川夏彦氏
- 5.18 第16回 只見の自然に学ぼう会「虫にとりつく菌類 冬虫夏草のふしぎな世界」(季の郷湯ら里) 講師:貝津好孝氏・山本航平氏



貝津氏の講演

- 7.11-14 パネル展示「冬虫夏草のふしぎな世界展」を開催(季の郷湯ら里)

2020年

- 5.30 ユビソヤナギ調査(伊南川・黒谷川)
  - 4.26 花暦調査(寄岩林道) 11月までの計8回実施
  - 5.23 花暦調査とバードウォッチング(寄岩林道)
  - 9.24 環境省主催「越後三山只見国定公園における公園計画見直しの計画素案」説明会に参加
- \* 新型コロナウイルスの流行により学ぶ会創立20周年記念事業など、活動の中止を余儀なくされる(2020-2022年)

2021年

- 4.20 『福島県只見町の花暦』刊行 A5/本文48頁(500部)
- 4.25 春の植物と野鳥観察会(黒谷林道～黒谷発電所)
- 5.16 花暦調査(楡戸沢林道) 11月までの計7回実施
- 11.21 第17回 只見の自然に学ぼう会「まちづくりは歴史に学び文化を育むことにあり―わが半生を語る」(朝日振興センター) 講師:飯塚恒夫氏

- 12.24 公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金助成決定

2022年

- 1.15 第1回 只見の自然を再発見する講座 講師:太田祥作氏
- 2.26 第2回 只見の自然を再発見する講座 講師:吉岡義雄氏
- 3.12 第3回 只見の自然を再発見する講座 講師:緒勝祐太郎氏
- 5.7 春の植物と野鳥観察会(黒谷川流域)
- 5.15 花暦調査(会津朝日岳登山道) 11月までの計7回実施
- 8.30 『福島県只見川水系の希少樹種ユビソヤナギ 2011年7月新潟・福島豪雨前後における只見町の自生地の変化』刊行 A4/本文44頁(300部)

2023年

- 5.16 花暦調査(奥会津ただみの森キャンプ場) 11月までの計7回 \*この年から調査地を2013年の只見町青少年旅行村いこいの森(現奥会津ただみの森キャンプ場)に戻し、2巡目になる
- 10.14 リーフレット「只見町周辺の保護林と自然公園」を発行 A3両面(600部)

2024年

- 5.12 第1回 集落めぐり(二軒在家)



二軒在家の熊野神社

- 5.14 花暦調査(要害山) 11月までの計7回実施
- 11.9 第2回 集落めぐり(十島・塩沢)

2025年

- 1.13 水鳥観察会(全国ガンカモハクチョウ類一斉調査)[滝湖・只見湖]
- 5.10 春の植物と野鳥観察会(蒲生)
- 5.17 花暦調査(季の郷湯ら里周辺) 11月までの計7回実施予定
- 6.28 第3回 集落めぐり(塩ノ岐)
- 6.28 第24回 総会

2025年6月現在

会 員:82名

代 表:新国勇

事務局長:渡部和子

幹 事:熊倉彰・高原豊・古川勝久・大宮明

会 計:遠藤菜緒子

# 只見の自然に学ぶ会 発行物一覧



只見地域における 自然体験活動ガイドライン  
 (左)ガイド・インストラクター向け A4・6ページ  
 (右)一般用 A4両面3つ折  
 2004年4月発行  
 只見の自然をいつまでも楽しむためのガイドラインを  
 策定



水辺林は生き物たちのオアシス  
 2004年5月発行 A4・4ページ  
 水辺林の大切さをイラストを交えてわかり  
 やすく解説したパンフレット

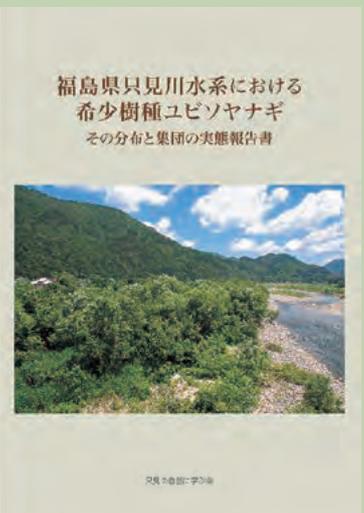


福島県只見町の水辺林 生き物  
 たちのオアシス水辺林を残そう  
 2005年5月発行 A5・本文32ページ  
 鈴木和次郎氏監修のもと作成した水辺  
 林についての学習テキスト

福島県只見川水系における希少樹種ユビソヤナギ  
 その分布と集団の実態報告書  
 2012年4月発行 A4・本文80ページ  
 2006年から始めた只見川水系のユビソヤナギ全木調査  
 の報告書。分布マップ、解説、全木リストを掲載



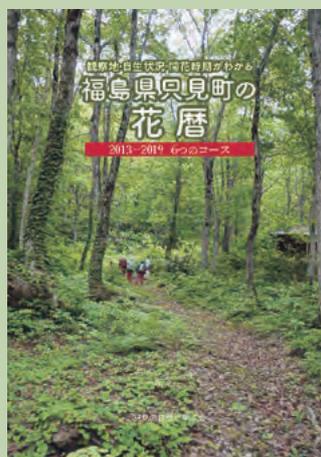
奥会津只見町の水辺林MAP  
 2005年5月発行 B5・8ページ  
 身近にある水辺林についてよりよく知ってら  
 うために作成した只見町の水辺林分布マップ



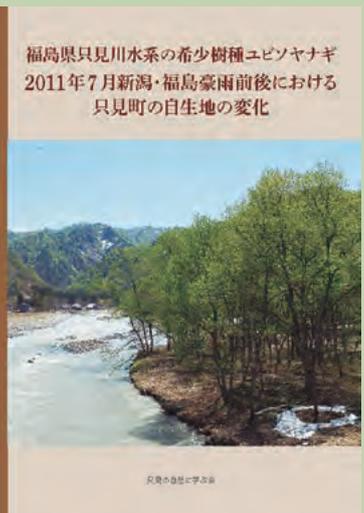
福島県只見川水系の希少樹種ユビソヤナギ  
 2011年7月新潟・福島豪雨前後における  
 只見町の自生地の変化



只見の自然を楽しむ本  
 2014年10月発行 A4変形・本文32ページ  
 子どもから年配の方まで、四季折々の只見の  
 自然の奥深さを知る手引書として、お子さん  
 にもおすすめの見て楽しい冊子



福島県只見町の花暦 2013-2019 6つのコース  
 2021年4月発行 A5・本文48ページ  
 2013年から2019年(2016年をのぞく)にかけて行った  
 花暦調査(5月から11月の各月1回、つぼみ・花・実をつ  
 けた植物を記録)をまとめた1冊



福島県只見川水系の希少樹種ユビソヤナギ  
 2011年7月新潟・福島豪雨前後における  
 只見町の自生地の変化  
 2022年8月発行 A4・本文44ページ  
 2011年7月の豪雨により大きな被害を受けた只  
 見川水系のユビソヤナギについて、洪水前後の  
 自生地の変化を図示し、今後の河川管理のあり  
 方・保全策にも言及

「只見の自然に学ぼう会」の告知用ポスターとチラシ

**第2回 只見の自然に学ぼう会 (講演会)**  
**希少樹種の保全とは何か?**  
 ～ハナノキからコバノナギへ～

講演者 鈴木和次郎氏

2009年2月1日(日) 14:00～15:30  
 朝日地区センター2階式ホール  
 鈴木和次郎氏

**第3回 只見の自然に学ぼう会**  
**只見の植物と巨木**  
 奥深い森に自まれた巨木たち

講演者 伊沢正名氏

平成21年6月9日  
 14:00～16:00  
 只見地区センター1階大ホール  
 伊沢正名氏

**第4回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会と観察会のお知らせ**

講演者 三田村博士

2011年11月11日(日) 13:30～15:30  
 只見地区センター

**第5回 只見の自然に学ぼう会**  
**オオヤマネコの生態を巡る**  
 アガリコの生態

講演者 伊沢正名氏

平成22年3月9日  
 14:00～16:00  
 只見地区センター1階大ホール  
 伊沢正名氏

**第6回 只見の自然に学ぼう会**  
**雪国の伝承と技**  
 雪国の人々の暮らし

講演者 杉村 祐司氏

平成22年4月6日  
 14:00～16:00  
 只見地区センター2階式ホール  
 杉村 祐司氏

**第7回 只見の自然に学ぼう会**  
**只見の湧水と守り**  
 トワタカワデラ

講演者 伊沢正名氏

2012年2月23日(金) 13:30～15:30  
 只見地区センター2F 大ホール

**第8回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会「くさつてつながらる命の環」**  
**観察会「お尻で見る葉っぱ図鑑」**

講演者 伊沢正名氏

2011年6月12日(日) 14:00～16:00  
 只見地区センター1階大ホール

**第9回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会「只見の冬虫夏草を探そう！」**

講演者 伊沢正名氏

平成22年11月11日(日) 14:00～16:00  
 只見地区センター1階大ホール

**第11回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会 環境病をいやす 奥会津の実践**

講演者 池谷純仁氏

2013年1月27日(日) 13:30～15:00  
 朝日地区センター

**第12回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会 懐かしき茅葺き時代の南会津**

講演者 佐藤 勉氏

2014年3月8日(日) 16:00～17:30  
 叶津番所

**第13回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会 震災と原発事故**  
 そして生きものたち

講演者 伊沢正名氏

2016年11月20日(日) 19:00～21:00  
 只見地区センター1階大ホール

**第14回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会 世界自然遺産 小笠原諸島の自然と保全への取り組み**

講演者 加藤英寿氏

2018年4月15日(日) 10:00～12:00  
 只見地区センター1階大ホール

**第15回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会 コモンズと只見の共同利用資源**  
 一町津を中心

講演者 林 雅秀氏

2019年5月18日(日) 13:30～15:30  
 只見地区センター1階大ホール

**第16回 只見の自然に学ぼう会**  
**講演会 冬虫夏草のふしぎな世界**  
 虫にとりつく菌類

講演者 伊沢正名氏

2019年7月14日(日) 14:00～15:30  
 朝日地区センター1階大ホール

**第17回 只見の自然に学ぼう会**  
**文化を育むことにあり**  
 わが半生を語る 飯塚恒夫氏

講演者 飯塚恒夫氏

2020年4月18日(日) 13:30～15:00  
 只見地区センター1階大ホール

第1回（2008年）は、告知用の印刷物はなかった。第2回から第6回までは会員のプリンターで印刷。第7回（2010年）からは、少数ながらA3ポスターとA4チラシを印刷所に外注した。ポスターは町内各所に貼り出し、チラシは会員が知人に配って歩き、参加を呼びかけた。各回の参加者は、20名から50名ほどで、いずれも町内の施設を利用した。なお、第8回（2011年4月）は東日本大震災の影響で開催できず欠番になっている。

# 学ぶ会通信

合本 vol.1 2007.9.25—vol.20 2025.2.10

発行 2025年10月31日

発行者 只見の自然に学ぶ会  
代表 新国 勇

[事務局]

〒968-0431

福島県南会津郡只見町榎戸館ノ川1575 渡部方

Tel. 0241-82-3242

URL <http://www.fukosya.com/manabu>

※本誌掲載の写真、文章等の無断転載、コピーを禁じます。



表紙の写真(左上から):ニホンカモシカ、ホンドギツネ、ホンドタヌキ、ニホンイタチ、ニホンアナグマ、ニホンザル  
裏表紙の写真(左上から):カケス、クマタカ、オオルリ、アトリ、トキ(2009.4.30-5.5飛来)、シジュウカラ